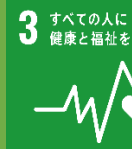


障がい者スポーツ×SDGs

持続可能な支援体制構築に向けて



キーワード

障がい者スポーツ・地域貢献活動・ボランティア支援・共生

○取り組んだきっかけ

日本障がい者スポーツ協会主催のスポーツ指導者講習会を受講後、理学療法士として障がい者スポーツ支援活動を実施していたが、学生たちとともに関わる機会を確立することも社会や教育的視点から重要と考え、常葉大学障がい者スポーツ支援サークル「Supporting Para Sports」を設立したことをきっかけに取り組みを始めた。

○具体的な内容

1) 静岡県障がい者スポーツ大会/わかふじスポーツ大会 (2018年～現在)

大会に参加する障害児・者(パラアスリート)たちの誘導係、競技得点などの記録係、表彰式のお手伝いなど、大会運営の支援を中心としながら、積極的に選手へ声を掛け、心のサポートも気にかけて行っている。陸上競技、フライングディスク競技、ボッチャ競技等を担当している。

2) 電動車椅子サッカー大会/パワーチェアフットボールチャンピオンシップジャパン2019 (2019年)

袋井市エコパアリーナで開催される電動車椅子サッカー全国大会において、運営サポート(受付業務、試合スコアシートの記入、会場アナウンス、式典の進行と補佐、駐車場案内等)を中心に行った。全国から静岡に集結しているため、大会運営サポートのみならず、ランチタイムなどのインターバルでは、静岡県の魅力をご家族や選手たちに積極的に紹介しながら、競技で張り詰めた緊張を解きほぐすような活動も行った。

○期待される効果

1. 障がい者スポーツ支援活動を通じて、学生たち自身の自己形成を促し、主体的に社会や社会問題と関わるができる人材の育成。
2. 障がい児(者)とその家族、健常児(者)の方々が障がい者スポーツを通して交流を深めることで相互理解を深め、それらを基盤とした共生のための街づくり支援。
3. 障がい者スポーツを通して、社会参加を促し、心と体の健康を維持、改善を促進すること。

○活動の目的

1. スポーツを通して、障害児(者)の社会参加を支えること。
2. 障害児(者)と健常児(者)がスポーツを通して交流を図る機会を支援することで、相互理解を深め、共生の歩みを実現していく。
3. 常葉大学教育理念の1つである「地域貢献」を継続的に実践できる人材を育成し、支援体制を構築すること。

3) 掛川市チャレンジドスポーツ交流会 (2018年～現在)

障がい児・者とその家族、健常児・者がニュースポーツの体験を通して交流を深め相互理解し、新しい交流のスタイルを確立することを目的に、掛川市チャレンジドスポーツ協会と共に活動している。トランポリン(ユーロ)、吹き矢(プレスアップ)、フライングディスク(アキュラシー、ピン倒し)、ラダーゲッター、ディスクゲッター、的あてゲーム、だるま落とし、メデシンボールリレーを担当している。



写真1. 掛川市チャレンジドスポーツ大会 支援場面



写真2. 静岡県障がい者スポーツ大会 集合写真

教員名	中村 浩一
所属学部	健康科学部
学科	静岡理学療法学科
職位	准教授



提携連携先

静岡県障がい者スポーツ協会
掛川市チャレンジドスポーツ協会